

「パンジャケント市ロイク・シェラリ地区給水設備整備計画」引渡し式

5月24日、宮下大使は、首都ドゥシャンベから約260km北西にあるパンジャケント市を訪問し、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」のスキームで実施された給水設備整備プロジェクトの引渡し式に出席したところ、概要は以下のとおりです。

- 1 宮下大使は挨拶で、「安全できれいな水は、質的に豊かな生活の根幹を成すとともに、水由来の感染症の防止にもつながります。新たな給水設備が適切に維持・管理され、この地域により豊かな生活をもたらしてくれることを願っています」と述べました。
- 2 総額90,846米ドルの本プロジェクトは、パンジャケント市ロイク・シェラリ地区4村の水資源インフラ改善を目的として、我が国政府が資金を供与し、同市により実施されたものです。これら4村の住民は従前、上流の水源から取水していましたが、水源周辺で放牧されている家畜の糞尿が混入することによる水質汚染被害、泥流が川を堰き止めることによる水不足問題に直面していました。今回、水源と各村の貯水池を結ぶ全長4kmの給水パイプラインが整備されたことによって、約4,250名の住民は安全な飲料水・生活用水を利用できるようになりました。
- 3 引渡し式にはアブドゥホリク・ホリクゾダ・パンジャケント市長をはじめ、大勢の地域住民が参席しました。ホリクゾダ市長からは、日本の支援に対する感謝の言葉が述べられました。



タジキスタンの伝統であるパンと蜂蜜で
歓迎される宮下大使



テープカットの様子



整備された給水設備

